

国際スポーツ・健康産業総合展示会

スポルテック 松本大臣・河合スポ庁長官が講演

日本最大級の国際スポーツ・健康産業総合展示会「SPORTEC2026」が7月8(10日)に都内で開催され、初日である8日には、オープニングセレモニーが挙行された。

セレモニーでは、スポルテック実行委員会の前田実行委員長(鹿屋体育大学理事・副学長)が挨拶し「スポルテックでは、スポーツをする、見る、支える、集まる、つながる全てのコンテンツが紹介され、セミナーも企画されている。皆様のビジネス、研究、スポーツ、イノベーション創出につながることを祈念したい」と話した。続いて、河合純一スポーツ庁長官が来賓挨拶を述べ「AIやデジタル化が進む中であるからこそ、身体育成を伴うスポーツの価値はさらに高まっている。日本全体、そして世界に向けて力強く情報発信できるように盛り上げたい」と期待を示した。



前田実行委員長(前列右から4人目)、来賓の河合長官(同3人目)らによるテープカット(東京ビッグサイト)

最後には、前田実行委員長と来賓の河合長官らによるテープカットが行われ、イベントは盛大に開幕した。

また同会場では、松本洋平文部科学大臣がスポーツ施策として「健康・活躍社会」の実現パッケージについて発表した。

運動・スポーツ実施による心身の健康改善が生み出す経済効果は1年あたり12・6兆円であることを示し、就労期間の延伸、医療費・介護費削減等により生まれるものであると説明した。一方で、国民の運動・スポーツ実施状況において20～50代の働き盛りの現役世代は、運動・スポーツ実施率が低いことを指摘。実施率の向上やスポーツの裾野拡大に取り組みむことで「健康インフラ」を構築し、国民一人ひとりが健康で活躍できる社会「健康・活躍社会」の実現を目指すことを強調した。

具体的には、現役世代の運動実施率の向上として、就業時間を利用した取組促進に向け、企業に対する新たな支援の仕組みの構築、身近な運動する場の確保のため、地域住民と学校が共用できる屋内プールの全国整備や、学校体育館を地域に開放して整備し、管理も含め外部委託化すること等を示した。

次に、河合長官が「スポーツ参加者の増加に向けた政策と実行」如何にしてスポーツの持つ力を最大化し健康長寿・共生社会を実現していくか」と題して基調講演を実施。現在、策定に向け議論されている第4期スポーツ基本計画や、今年度から改革実行期間がスタートした部活動の地域展開等、スポーツ庁の政策などについて紹介した。



松本文科大臣がスポーツ施策の具体的なプランを発表